

市消防団長に 宮坂氏が就任

市役所で辞令交付

帯広市消防団の朝日正行団長（72）の勇退に伴い新団長に就任した宮坂寿文氏（62）＝宮坂建設工業社長＝の辞令交付式が5日、帯広市役所で行われた。

宮坂氏は2014年4月に市消防団本部の副団長を務め、今年4月1日付で新団長に就任した。交付式では田中敬二副市長から辞令を受け取った。市消防団は13分団に団員

田中副市長から辞令を受け取る宮坂新団長



350人が在籍。宮坂氏は「消防団が地域に貢献する力は大きい。台風や地震などの災害への防災力を高めたい」と意気込みを語った。（高津祐也）

宮坂社長が帯広市 消防団長に就任

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広）の宮坂寿文社長は、1日付で帯広



市消防団長に就任した。5日に帯広市庁舎で辞令を受け取った＝写真＝。

消防団は本業を持つ地域住民が団員となる。市消防団は13分団で構成し団員は350人になる。同社は、初代社長の宮坂寿美雄氏をはじめ歴代社長が団長を務めるなど団の設立時から活動に協力している。宮坂社長は2014年度から4年にわたって副団長を務めた。

辞令交付式で田中敬二副市長は「市民の生命と財産を守る消防団の先頭

に立ち、地域の防災リーダーとしての役割を果たしてほしい」と呼び掛けた。宮坂社長は「ライフワークとして防災に関わってきた。公私ともに防災について真摯（しんし）に行動していきたい」と話し、台風、地震への災害対応、防災教育にも取り組み意欲を見せている。

帯広市消防団長に就任

宮坂建設工業の宮坂社長

防災の要として役割全う

行われ、宮坂社長は「身の引き締まる思い。帯広市民の安全と防災の要として役割を果たしていきたい」と決意を表明した。

帯広市消防団は、十三分団で構成されており、団員数は約三百五十人に及ぶ。

本業をもつ地域住民が団員となり、「自分たちの地域は自分たちの手で守る」という郷土愛護の精神のもと、市民の生命・身体・財産を守るための活動を展開している。

同社では、宮坂社長の父・分一氏、祖父・寿美雄氏など歴代社長が団長を歴

【帯広発】宮坂建設工業(株)(帯広)の宮坂寿文社長が一日付で、帯広市消防団の団長に就任した。五日に市役所で辞令交付式が執り



辞令を受け取る宮坂社長(左端)

守るといふ崇高な使命達成のため先頭に立ち、地域の防災リーダーとして役割を果たし、市民の信頼に応えていただきたい」と期待した。

一方、宮坂社長は「台風災や地震災への対応など、防災としての消防団を目指したい」と強調。

地域の防災力を高めるため、関係機関と連携しながら、防災教育にも力を注いでいく考えを示した。

任。宮坂社長は、二十六年四月一日から副団長を務めている。

この日は、田中敬二副市長が宮坂社長に辞令書を手渡し「市民の生命と財産を